

平成30年8月9日開会

かけがわ中学生議会 会議録



かけがわ中学生議会会議録 目次

平成30年8月9日（木）開会

開会（午後 1時32分）	-----	1
○議 長 鈴木正治君（あいさつ）	-----	1
○市 長 松井三郎君（あいさつ）	-----	2
日程第1 会期の決定	-----	4
日程第2 一般質問	-----	4
○ 1番 北中学校（山崎日路君、藤田巴南君）	-----	4
○ 2番 東中学校（戸塚郁果君、黒田恭也君）	-----	7
○ 3番 西中学校（小崎凧紗君、後藤将太君）	-----	9
・休憩（午後 2時24分）	-----	13
・開議（午後 2時35分）	-----	13
○ 4番 栄川中学校（谷川 蓮君、杉山智香君）	-----	13
○ 5番 大浜中学校（古家朱那君、雑賀厚頼君）	-----	17
○ 6番 桜が丘中学校（後藤優貴君、土屋百合子君）	-----	20
・休憩（午後 3時24分）	-----	24
・開議（午後 3時35分）	-----	24
○ 7番 城東中学校（前嶋颯太君、前堀彩花君）	-----	24
○ 8番 大須賀中学校（井上瑠久君、伊藤理乃君）	-----	28
○ 9番 原野谷中学校（片桐菜花君、小林祐太君）	-----	32
○中学生議長 後藤 優貴君（あいさつ）	-----	36
○教育長 佐藤 嘉晃君（講評）	-----	37
○副議長 榛葉 正樹君（あいさつ）	-----	38
閉会（午後4時35分）	-----	39

議 事

午後 1 時 3 2 分 開会

○議会事務局長（栗田一吉君） ただいまからかけがわ中学生議会を始めます。

開議に先立ち、掛川市議会、鈴木正治議長より御挨拶申し上げます。

〔掛川市議会議長 鈴木正治君 登壇〕

○掛川市議会議長（鈴木正治君） 皆さん、こんにちは。

掛川市議会議長の鈴木正治です。

一言皆様に御挨拶申し上げます。きょうは大変多くの傍聴者の皆さんにお越しいただきまして、本当にありがとうございます。今回は通算 3 回目となる中学生議会でありますけれども、今回も各中学校より多くの皆さんに御参加いただきまして、本当にありがとうございます。

きょうは心配されていた台風13号も皆さんの心がけがよかったことと思いますが、東のほうにそれて、こちらのほうには影響なく、本日の中学生議会が無事開かれることになりました。

さて、本日皆さんが今座られている席ですが、これはふだんは議員の皆さんが座っている席です。それで、こちら側にきょうは議員は座ってますけれども、こちらは市長以下、市の幹部職員です。こちらのほうに議員が座っているんですが、ふだんはこちらにも市の幹部職員が座って議会が開かれます。そして、市長からいろんなこういふことをやりたいよ、こうしたいよとかいふ、いろいろ提言がここでなされまして、それに対して議会のほうで、座っている皆さんの議員のほうが良いね、やろうよというようなこと、あるいはそれはちょっと今難しいんじゃないのとか、こういうことが議論されて、ここで承認されると初めていろんなことができる、こういうのがこの議会でありまして、もう既に皆さんには議員のほうから説明があったと思います。

そんな中、今回中学生議会を開催することとなった背景ですが、2016年の参議院選挙から選挙権年齢が20歳から18歳に引き下げられたことや、もともと若い世代の投票率が低かったことから、もっと若者に政治に関心を持ってもらいたいとの思いからこういうことが始まりました。皆さんの場合は18歳選挙権もそうですが、本年 6月の民法改正により、18歳成人という新しい制度も該当します。2022年 4月 1日から施行される新しい法律では、皆さんがちょうど18歳あるいは19歳になったころに、今まで二十歳だったのが今度は成人として扱われる新しい制度になります。この制度は国会で制定されたというのは皆さんも学校の授業で学んで御存じなことと思います。

その一方で、そんな法律は私は知らないよというようなことを言っても、これは通りませんので、知ろうと知るまいと全ての国民に等しく降りかかってくるのが法律というものであります。だからこそみずから積極的に政治に関心を持って、自分の考えを実現してくれそうな政治家に一票を投じ

るほうがよほど前向きな考えではないでしょうかね、皆さん。

きょうは皆さんがそういう政治家や、あるいは議員になったという想定で、日ごろ感じていること、何とかしてもらいたいというようなこと、そして、掛川市の将来の夢や希望について市長や教育長に質問をしていただくわけであります。再質問等においてはぜひ皆さんも神ってる質問をぜひしてください。きょうの経験は皆さんが学校では味わうことのできない貴重な体験になるものと思います。そして、もしその気になったら、市長や議員といった政治家をぜひ志していただきたいと思います。皆さんがそういう方向を目指してくれることを期待しております。

最後になりますが、保護者の皆さん、あるいは関係者の皆さんには傍聴にお越しいただき、本当にありがとうございます。本日の中学生議会を通じ、皆さんのこれからの活躍を期待しておりますので、よろしく願いいたします。きょうはありがとうございます。

○議会事務局長（栗田一吉君） ありがとうございます。

続いて、当局を代表しまして松井市長より御挨拶をお願いいたします。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 皆さん、こんにちは。

掛川市長の松井でございます。

本日 3回目となるかけがわ中学生議会に18名の中学生議員の皆さんに参加をいただきました。掛川市長として大変うれしく、そして楽しみにもしております。

この場から皆さんの顔を見ますと、これから始まるこの議会に対する大変強い熱意と意欲がひしひしと感じてきて、大変頼もしくも思います。

私も60年近く前、皆さんと同じぐらいの年代だったかなと、大変うらやましくも感じております。そういう意味できょうは若さを存分に発揮して、いろいろな意見を聞かせていただきたいと、こう思います。

皆さんが座っておられるこの議場は、選挙で選ばれた21人の市議会議員の皆さんと市行政当局が市民の皆さんの幸せのために議論をする大変大切な場所であります。公職選挙法の改正の話がありましたが、18歳から選挙に参加できることとなりましたが、掛川市の未来を担う若い皆さんが市議会の運営を直接に体験し、この場でまちづくりの議論を行うことは大変有意義であり、皆さんにとっても貴重な体験になると思います。ぜひこの貴重な体験を多くの友達に伝えていただき、若者がまちづくりに関心を持っていただける機会になれば大変うれしいというふうに思います。

本日、中学生議員としてのこの議場において、私たちの掛川市をさらに住みよいまちにするために、皆さんが一生懸命考えたことをこれから質問いただくわけでありますが、自信を持って質問を

していただき、皆さんの未来への夢や希望、これをしっかり伝えていただきたいと思います。私たちも皆さんの御質問に精いっぱい一生懸命答弁をさせていただきます。皆さんからいただいた素晴らしい意見や提案はこれからの政策にしっかり生かし、若い人たちの未来のため、一生懸命まちづくりに取り組んでいきたいと考えております。

結びに、かけがわ中学生議会の開催に当たりまして大変御尽力をいただきました学校の関係者の皆様、それから保護者の皆様、そして市議会の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、今後も市政運営に対しまして一層の御支援と御協力をお願い申し上げ、冒頭の私からの挨拶とさせていただきます。一生懸命私も答えますので、情熱を傾けて質問してください。ありがとう。

終わります。

○議会事務局長（栗田一吉君） ありがとうございます。

次に、当局側の出席者を御紹介させていただきます。

お名前をお呼びしますので、その場で御起立ください。

伊村義孝副市長。

○副市長（伊村義孝君） こんにちは。

○議会事務局長（栗田一吉君） 浅井正人副市長。

○副市長（浅井正人君） こんにちは。

○議会事務局長（栗田一吉君） 佐藤嘉晃教育長。

○教育長（佐藤嘉晃君） こんにちは。

○議会事務局長（栗田一吉君） 高柳総務部長。

○総務部長（高柳 泉君） こんにちは。

○議会事務局長（栗田一吉君） 鈴木理事兼企画政策部長。

○理事兼企画政策部長（鈴木哲之君） こんにちは。

○議会事務局長（栗田一吉君） あと、個別には御紹介は割愛させていただきますが、関係部長の皆さんです。よろしくお願いたします。

それでは、本日の議長を務めます後藤優貴議員は、議長席のほうへお進みください。

〔後藤優貴君 議長席に着座〕

○議長（後藤優貴君） こんにちは。

ただいま御紹介を受けました議長を務めます桜が丘中学校、後藤優貴です。よろしくお願いたします。

開 会

○議長（後藤優貴君） ただいまの出席議員数は18名です。定足数に達していますので、これからかけがわ中学生議会を開会します。

開 議

○議長（後藤優貴君） これから本日の会議を開きます。

日程第1 会期の決定

○議長（後藤優貴君） 日程第1、会期の決定を議題とします。

お諮りします。

かけがわ中学生議会の会期は、本日1日限りとしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○議長（後藤優貴君） 御異議なしと認めます。したがって、会期は本日1日限りと決定しました。

日程第2 一般質問

○議長（後藤優貴君） 日程第2、一般質問を行います。

発言順序表により順次発言を許します。

なお、議事の都合により、一般質問は一括方式で行います。再質問は回数制限なくできることとし、時間は答弁、再質問を含めて15分以内とします。1回目の質問については、議員及び答弁者はいずれも登壇することとし、再質問以降については、いずれも自席にて御起立の上、必ず質問事項を述べてから質問するようお願いいたします。なお、答弁については、重複することのないよう、簡潔にお願いします。

1番 北中学校の一般質問

○議長（後藤優貴君） それでは、まず、1番、北中学校の発言を許します。山崎君、藤田さん、御登壇ください。

〔1番 山崎日路君、藤田巴南君 登壇〕

○1番（山崎日路君、藤田巴南君） 1番、北中学校、山崎日路です。藤田巴南です。

通告に従って、一般質問を始めます。

○1番（山崎日路君） 質問項目は生徒の手による地域貢献についてです。

北中学校は、技術の授業で1年生のときにベンチをつくり、2、3年生ではPepperのプログラムをつくっています。ベンチづくりは、完成品を地域の公共施設に設置する予定だったため、目標を持って製作に取り組むことができました。そして、実際に天竜浜名湖線の駅に設置されたときにはとてもうれしかったです。しかし、Pepperに関しては使用される予定はありませんでした。

私たち北中学校が掛川市の代表として全国大会へ出場したとき、他校の中で、地域の紹介や案内をするプログラムを紹介していた学校があり、大変有意義なものに感じました。これらのことから、今後さらに中高生が地域に貢献できる掛川市にしていくため、私たちが考える施策について市長の考えを伺います。

技術の授業等で製作した作品を病院や老人ホーム、公園など、地域の公共施設に設置し、市民に利用してもらおうという取り組みを推進していくべきではないかと考えますが、市長の考えはいかがですか。

また、生徒の意欲向上や、地域の活性化につなげるため、P e p p e r等のプログラムで掛川市の観光を案内したり、掛川の魅力をアピールしたりしていくのはどうでしょうか。

○1番（藤田巴南君） 私の質問項目は中心市街地の活性化についてです。

掛川城下の中心市街地は、掛川市を代表する「都市の顔」であり、城下町としてとして栄え、歴史・文化を育み、市民の心のふるさととも言える地域だと思います。

しかし、最近では高齢化の進展や、商店街における空き店舗の増加、郊外への大型店の進出など、中心市街地を取り巻く環境は厳しいと感じます。店のシャッターをあけられないのにも理由はさまざまあると思いますが、活気のある中心市街地になれば、観光に来てくださる方は今よりもっとふえるのではないかと思います。そこで、中心市街地のさらなる活性化について市長の考えを伺います。

中心市街地の居住人口の推移や、店舗数の推移はどのように変化しているのか、また、中心市街地を活性化させるための具体的な対策はどのようなものを行っているのか、また、今後さらに中心市街地の発展のための施策の展望を伺います。

以上で終わります。

○議長（後藤優貴君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 山崎さん、藤田さんの御質問にお答えをいたします。

ことしの5月に天竜浜名湖線の市役所前駅にベンチを設置していただき、大変ありがとうございました。駅を利用する方からも大変喜んでいただきました。本当にありがとうございます。私も行ってこの目でベンチを見させていただきました。ありがとうございます。

それでは、質問項目の(1)の授業で製作した作品を公共施設へ設置するなどの取り組みについてありますが、各地域で毎年実施している防災訓練や清掃活動に中学生や高校生の若い方々にも参

加をさせていただいており、今でも地域の一員としての活躍をいただいております。これらに加えて、授業の一環として製作する作品でも貢献をしたいという御提案だと思います。大変うれしく感じております。市役所にいろいろな御提案をいただければ、公共施設、御指摘のあった病院とか老人ホームあるいは掛川市のいろんな施設等々に皆さんの御相談をしっかり受けて、工作物が展示できるような、そういう努力をしていきたいというふうに思っております。

いろんな取り組みを掛川市は協働のまちづくりということで進めております。市民の皆さん、それから掛川の皆さん、一緒になって行政と取り組んでいく、そういうまちづくりにこの御提案も通じるものというふうに思っております。大変うれしく思っておりますので、どんどん提案してください。よろしく願いいたします。

それから、2つ目のP e p p e r等のプログラムで掛川市の観光を案内したり、アピールすることについてであります。掛川市は昨年度からP e p p e rを導入したプログラミング教育を推進をしております。授業では単にプログラミングの仕組みを学ぶだけでなく、P e p p e rの利活用について、皆さんで考えていただいているからこそ、この質問もいただいたところではないかなと、大変喜ばしく思っております。

P e p p e rを初め、A I、人工知能ですね、については、目まぐるしく進化しており、観光客へのおもてなしや観光案内、情報収集・分析などさまざまな活用が考えられます。市内でも昨年度に約2カ月間、大東温泉シートピアの受付でP e p p e rが来客へのおもてなしをしたところ、大変な人気を博しました。これからは観光施設における案内やおもてなしなど、P e p p e rを利用する際にどんな活用ができるか掛川市としても考えていきたいと思っております。

ことしも11月に「スクールチャレンジ」コンテストが開催をされます。ぜひ、いろいろな機会地域活性化につながる具体的な御提案をいただきたいと思っております。

ちょっと余分なことを言うと、時間が15分ぐらい、答弁で終わってしまいそうだと。去年は全国大会で来てくれたんですよね。それで、私もP e p p e r君に「こんにちは」と言って握手しようと言ったら、P e p p e r君は何と言ったと思います。「いやあ、恥ずかしい」と、こう言ったんですよ。そのくらいもう非常に会話ができるということでもありますので、観光客も接客等々含めて御提案のことをしっかり進めていきたいというふうに思います。

それから、次に、質問項目2の中心市街地の活性化についてであります。居住人口は、平成21年から減少傾向でしたが、平成29年は駅前にマンションができたことなどにより、前年対比で107人増加の1,507人でした。また、営業店舗数は増加傾向にあり、平成29年は平成23年と比較し、33店舗増加の395店舗でありました。

現在の活性化の対策としては、掛川駅前の再開発事業により「we+ 138ストア」などを整備し、この事業で整備したにぎわい広場でのイベントや、駅前通りを歩行者天国にして市内でとれた農産物などを販売する「けっトラ市」、それから「納涼祭」を開催するなど、にぎやかにするとともに、空き店舗対策や新しい仕事を始める人への支援などに取り組んでおります。

今後については、この再開発事業を検証した上で、町なかがにぎわうような店舗の種類などの検討や先進事例の研究を行い、民間活力により次の開発事業へつなげていきたいと考えております。いずれにしても、きれいなまち、緑の多いまち、町なかということが多くの訪れた人が大変すばらしいまちだと、住んでいる人も安心感が保てる、そういうきれいなまちにぜひしていきたいというふうに思っています。

私からは以上であります。

○議長（後藤優貴君） 再質問はありますか。

1番、北中学校。

○1番（山崎日路君） 再質問はありません。大変勉強になりました。僕たちが将来の掛川を担っていけるよう頑張っていきます。

○1番（藤田巴南君） 再質問はありません。とても貴重な体験ができました。ぜひ対策をお願いします。

○議長（後藤優貴君） 以上で、1番、北中学校の質問は終わりました。

2番 東中学校の一般質問

○議長（後藤優貴君） 次に、2番、東中学校の発言を許します。戸塚さん、黒田君、御登壇ください。

〔2番 戸塚郁果君、黒田恭也君 登壇〕

○2番（戸塚郁果君、黒田恭也君） 2番、東中学校、戸塚郁果、黒田恭也。

通告に従って、一般質問を始めます。

○2番（戸塚郁果君） 質問項目は中心市街地の活性化についてです。

私たちの東中学校区には中心市街地も含まれています。しかし、私も含めて中心市街地に遊びに行く中学生は非常に少ないです。中心市街地には飲食店が多く、その多くが大人向けの飲食店です。掛川市中心市街地活性化基本計画ではテナントミックス推進事業として、町なかの空き店舗を利用して、有力なテナントを戦略的に誘致することを掲げています。先ほどの市長の答弁で、掛川市が活性化されていることはわかりましたが、小・中学生や高校生が利用できる店舗を積極的に誘致することも中心市街地のさらなる活性化につながると考えます。市長の考えを伺います。

○2番（黒田恭也君） 質問項目は待機児童ゼロを目指してです。

私は母から、母の知人が保育園入園の抽せんに外れ、困っていたという話を聞きました。現在、掛川市の待機児童は何人いますか。また、待機児童をゼロにするためにどのような対策を講じようと考えていますか、伺います。

以上で終わります。

○議長（後藤優貴君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 戸塚さんと黒田さんの御質問にお答えをいたします。

初めに、中心市街地の活性化について、先ほどちょっと同じような質問にお答えをしましたけれども、中心市街地には、小・中学生や高校生の皆さんが利用できる場所や店舗が少ない現状であります。先ほど店舗数が33店舗増加したという御説明をしましたがけれども、ほとんどが飲食店で、どちらかというと皆さんが入れないようなところだというふうに思っております。そうした中で、皆さんにふるさとへの愛着、それからにぎわいをつくり出すような店舗をぜひ呼び込んでいきたいというふうに思っております。

また、現在、連雀のニューセンターの2階のまちなか再生サロンや会議室を市民活動団体や自治会の皆さんに利用をさせていただいております。掛川市がこれらの場所を中学生の皆さんにも利用していただける仕組みを皆さんと一緒に考えていきたいというふうに思います。中学生の皆さんには町なかの活性化につながる店舗の研究や、誘致へのアイデアをぜひ御提案をいただきたいというふうに思います。

中心市街地のにぎわいを見ますと、普通のウイークデーの昼間は余り人が歩いていません。金曜日、土曜日の夜は大変人が出ております。それから、あと納涼祭とか、あるいはお祭りとかというときは人がばあっと出てきます。ですから、普通のとときにあの中心市街地に若い人が集まっていただけならば、大変にぎやかなまちになるというふうに思いますので、皆さんと一緒にあの中心市街地をどうしたら若い人が来ていただけるかということについても一緒になって知恵を出していきたいというふうに思いますので、いろんなアイデアを御提案いただきたいというふうに思います。再質問でアイデアが出たらよろしくお願ひします。

次に、質問項目2の掛川市の待機児童についてであります。ことしの4月に入所を希望した方で認可保育園へ入れなかった方が161人、そのうち認可外保育園に入園できたとか、幼稚園の預かり保育を利用した、そういう人を除いて、国の定義の待機児童というのは46人でありました。昨年

も一昨年も待機児童はゼロだったんですけれども、急に46人とふえた。待機児童をゼロにするために、企業へ保育所設置をお願いをしたり、ゼロ歳から2歳児のみを受け入れているすずかけっこ保育園で、来年度から3歳から5歳の定員を30人ずつふやして90人を受け入れるようにします。

また、大東、大須賀区域にある8つの幼稚園と5つの保育園を5つの認定こども園に再編する計画を進めております。今年度その第1号となるおおさかこども園の建設を今行っております。この再編により、幼稚園、保育園の定員を見直し、ニーズに沿った受け入れができ、待機児童がなくなるように努めてまいります。

ただ、入れるような施設だけを整備するというだけでは実は十分ではないんです。そこで働いていただける保育士さんの確保も一方で大変重要な課題であります。そういう意味では掛川市では乳幼児教育未来学会というものを立ち上げて、そこで保育士さんの仕事のあり方とか処遇の問題とか、いろいろ今検討、研究をしてもらっております。そして、制度的には、これは国が所管する部分が多いわけでありますので、国にしっかり提言をしていきたいと、こういうふうに思っております。いずれにしろ、待機児童ゼロを目指して、しっかり頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（後藤優貴君） 再質問はありますか。

2番、東中学校。

○2番（戸塚郁果君） 再質問はありません。今は少しアイデアが出てきてませんが、これから積極的にアイデアを出していこうと思います。ありがとうございます。

○2番（黒田恭也君） 再質問はありません。私にもできることをこれからやっていきたいと思っております。

○議長（後藤優貴君） 以上で、2番、東中学校の質問は終わりました。

3番 西中学校の一般質問

○議長（後藤優貴君） 次に、3番、西中学校の発言を許します。小崎さん、後藤君、御登壇ください。

〔3番 小崎風紗君、後藤将太君 登壇〕

○3番（小崎風紗君、後藤将太君） 3番、西中学校、小崎風紗、後藤将太。

通告に従って、一般質問を始めます。

○3番（小崎風紗君） 私からの質問項目は2つあります。

1つ目はラグビーワールドカップ、オリンピックについてです。

2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピックについて、たくさんの観客、関係

者の方々が掛川市にも訪れると思います。それに向けて、私たち学生にも協力できることはたくさんあると思いますが、市長の見解を伺います。

2つ目は市の活性化についてです。

シャッター街の活用や駅周辺の活性化について、私たちの話し合いでは、掛川城周辺の建物を歴史的な雰囲気統一してほしい、その掛川城周辺にインスタ映えスポットを導入してほしいという意見にまとまりました。掛川市は、私たち学生が楽しめる場所が少ないという思いから、もっとSNSを活用したくなるスポットがあれば、駅周辺の活性化につながると考えました。このことについて市長の見解を伺います。

○3番（後藤将太君） 質問項目は生活バス路線への補助金についてです。

近年、路線バスや市街地循環線の利用者が全体的にはふえていますが、一部路線では減少してきていると思います。そのような状況の中で、何とか路線を維持しようとするために、掛川市から補助金を出していると思います。僕はそんな中で、利用者がほぼいない時間帯の路線に補助金を出しているのは正直、無駄ではないかと思えます。ですので、現在の利用状況を調査、研究して、バスの時刻表を改めてみてはいかがでしょうか。

また、掛川市内でも全くバス路線が通っていない地域があると思います。その地域に住んでいる高齢者の方は、公共交通機関がないために免許の自主返納もなかなかできないのではないのでしょうか。ですので、公共交通機関がない地域では乗り合いタクシーなどを積極的に運行して、高齢者の方々に自主返納を進めれば良いと思います。これらのことについて市長の見解を伺います。

これで質問を終わります。

○議長（後藤優貴君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 小崎さんと後藤さんの御質問にお答えをいたします。

初めに、ラグビーワールドカップ、それからオリンピックについてであります。両大会の期間中は、国内はもとより、世界中から観戦客、観光客が掛川市を訪問することが予想されます。このため、掛川市では「おもてなし委員会」を設置して、全市を挙げて歓迎することを推進をしています。

御質問の件については、現在、おもてなし委員会において、ラグビーワールドカップのエコパ対戦チームを中学校区単位で応援する取り組みを進めております。御承知だというふうに思いますが、具体的には、中学校区別に応援チームを決めて、その国の文化、言語の学習をしていただきます。

また、中学生の皆さんには、チームを応援するのぼり旗のデザインを御提案いただき、中学校区内の小・中学生の皆さんの投票で応援旗を決定していただきます。決定した応援旗を学校や地域に掲げ、地域の皆さんと一緒に応援する雰囲気づくりをお願いをしたいというふうに思います。

先日、東中学校で講演をしたパラリンピックの上原大祐さんはこういうことをおっしゃっていました。「海外試合の際、日本語で挨拶をされたのが大変うれしかった。すごく歓迎されて、応援してくれていると感じた」と、そういうふうに言っていました。皆さんも海外からのお客様に英語やロシア語などの言葉でコミュニケーションをとっていただけたら、最高のおもてなしになると考えています。

きのうもラグビーのワールドカップの関係で、「ラグビー掛川サポーターズ」というのを立ち上げて、盛り上がりを図ろうという取り組みをきのうスタートしました。これも市民の有志の方がこういう組織をつくって頑張っていこうということでもありますので、ぜひ中学生も積極的にこのサポーターズに加わっていただければ、代表の方も大変喜ぶんではないか。議員の松本さんが代表になっていますので、ぜひそういう取り組みをお願いをしたいというふうに思います。

いずれにしても、ラグビーワールドカップはあと 407日、エコパの初戦が、これは日本代表と、それからアイルランドの試合があります。あと 407日ですので、すぐ先ですので、いろんな取り組みを皆さんもしっかりしていただきたいというふうに、これは先生にもお願いしなければいけないのかもしれませんが、市民の総力を挙げてしっかり雰囲気づくりをしていきたいというふうに思っていますので、よろしく願いをいたします。

それから、2つ目の質問項目の掛川市の活性化についてであります。掛川城周辺には御殿や竹の丸、ステンドグラス美術館や二の丸茶室など、歴史的、文化的な施設が多くあります。いろんなイベントを連携しながら行っています。特にことしは掛川城下、逆川沿いの掛川桜とユリの花のライトアップを行い、多くの来場者があり、大好評をいただきました。このライトアップの様子は、まさに御指摘のお話のインスタ映えスポットであり、掛川市のホームページでも見るができます。

また、掛川西高校では、昨年12月とことしの3月に掛川城を背景としたプロジェクションマッピング、これを実施し、多くの皆さんを楽しませるとともに、掛川市を全国にPRしていただきました。この取り組みは今年度も11月に行われる予定と聞いております。

今後も若者を引きつけるような企画を全国に発信していきたいと考えております。若い皆さんの柔軟な発想で、掛川市の活性化につながるような御提言をいただきたいと思います。

プロジェクションマッピングについては、後で担当部長に若干の説明をさせますので、よろしく

お願いします。

質問項目 3の生活バス路線への補助金についてであります。掛川市では赤字を抱えるバス会社へ補助金を出して、生活バス路線を維持をしております。

バスの時刻表を改めることについては、毎年、掛川市とバス会社で各路線の利用の状況を調査し、時刻表の見直しを行っておりますが、特に利用者が多い、または少ない時間帯や区間について、さらに研究し、効率化を図っていききたいというふうに思います。バスの最終便をやめて、少し利用率の多いところに便数を回すと、こういう取り組みをことしも進めております。

バス路線が通っていない地域での乗り合いタクシーの運行と高齢者の免許自主返納の推進については、移動手段の確保対策として、バス、タクシー、鉄道など、さまざまな手段の組み合わせにより進めていかなければならないと考えています。

現在、掛川市では高齢者などの地域住民を対象に、地域の支え合いで実施する生活支援車運行事業や、予約により自宅と指定施設を結ぶ乗り合いタクシー、いわゆるデマンドタクシーなどの事業を進めております。

今後も地域の状況に合った移動手段を、地域住民の皆さんに主体的にかかわっていただき、高齢者の自主返納の推進も含めて取り組んでいきたいと考えております。

再質問の時間がなくなってしまうといけませんので、担当部長、簡潔に。

○議長（後藤優貴君） 答弁願います。

鈴木企画政策部長。

〔理事兼企画政策部長 鈴木哲之君 登壇〕

○理事兼企画政策部長（鈴木哲之君） 掛川西高のプロジェクトマップについて、状況を報告させていただきます。

昨年度、高校生による地域活性化の一環としてプロジェクトマップを高校生みずからが発案し、さらに制作、運営まで行ってもらいました。先ほど市長の答弁でもありましたが、初めに、昨年12月にひかりのオブジェ展とタイアップ、それから、3月には掛川桜まつりとのタイアップということで、生徒みずからが発案をして実施をしてくれました。さらにマスコミへの発信も高校生みずからが行っていただきました。ことしは同じように、また掛川城周辺の施設を使ってプロジェクトマップを行うということでございます。本年度はさらに小・中学生と連携して行いたいということを伺っております。ぜひ掛川西高だけでなく、西中を含めて、皆さんの参加をぜひよろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（後藤優貴君） 再質問はありますか。

3番、西中学校。

○3番（後藤将太君） 再質問はありません。大変勉強になりました。将来市議会議員になって、掛川がよくなっていくように議論をしていきたいと思いました。

○3番（小崎風紗君） 再質問はありません。大変勉強になりました。海外からの観光客の方々に最高のおもてなしができるように勉強に努めていきたいと思います。

○議長（後藤優貴君） 以上で、3番、西中学校の質問は終わりました。

この際、しばらく休憩とします。

午後2時24分 休憩

午後2時35分 開議

○副議長（小崎風紗君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長にかわり、副議長において議長の職務を行います。西中学校、小崎風紗です。よろしくお願いいたします。

一般質問を継続します。

4番 栄川中学校の一般質問

○副議長（小崎風紗君） 次に、4番、栄川中学校の発言を許します。谷川君、杉山さん、御登壇ください。

〔4番 谷川蓮君、杉山智香君 登壇〕

○4番（谷川蓮君、杉山智香君） 4番、栄川中学校、谷川蓮、杉山智香。

通告に従って、一般質問を始めます。

○4番（谷川蓮君） 質問項目は掛川市の防災についてです。

私たちの栄川中学校では、1年生で地域の方々とともに体育館に宿泊し、避難所体験学習をし、防災について学習しています。栄川中学校は広域避難所になっていますが、水害のときには洪水や浸水が心配されます。掛川市内の災害への対策はどの地域も万全なのですか。

また、避難所生活は、私たちの避難所体験学習のように1日では終わりません。そして、私たちの地域は国道1号線、バイパスから避難してくる合流組があると言われています。例えば合流組があった場合、避難場所の確保はできるのか、食料は足りるかといった心配があります。避難生活が続くことや合流組がいることを想定した対策ができているのでしょうか、市長の見解を伺います。

○4番（杉山智香君） 質問項目は地域の民謡や民話の伝承についてです。

私たちの住む栄川地区には、たくさんの地域に伝わる民謡、唱歌や民話があります。しかし、そ

の民謡、唱歌や民話を歌い継ぐ、語り継いでいく人が少なくなっているそうです。

栄川中学校では、民謡「日坂馬子唄」、郷土唱歌「小夜の中山」という歌を私たち中学生が歌い継ぐ活動をしたり、「夜泣き石伝説」の民話を題材にした民謡劇「小夜の中山」を披露したりしています。私たちに民謡を教えてください方は、「録音や録画したものでは文化は伝わらない。実際に歌い継いでいかなければ文化としては伝わらない」とおっしゃっていました。

栄川地区だけでなく、掛川市にはたくさんの民謡・唱歌や民話があると思いますが、それらを紹介していただきたいです。そして、掛川市として地域に伝わる民謡・唱歌や民話をどのように継承していくつもりでいるのか、計画や見通しがあるのか教えていただきたいです。

以上で終わります。

○副議長（小崎風紗君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 谷川さんと杉山さんの御質問にお答えをいたします。

初めに、質問項目 1の災害への対策についてであります。地球温暖化により、地球環境はこれまでと違う新たなステージに入ってきたのではないかというふうに思っています。昨年度に静岡県が策定した想定し得る最大規模の浸水域図では、逆川や原野谷川の川沿いで、0メートルから5メートルの浸水域が広がっています。台風の大型化や集中豪雨の発生など、今までのような堤防のかさ上げや下水路の築造といったハード整備で災害を防ぐことができない状況となっております。

災害から命を守ることを最優先で考えて、避難する家庭の避難計画の作成など、市民の皆さんの意識を高めるソフト対策が重要だというふうに思います。

最近、豪雨災害等々に関したことといえば、国土交通省は物すごく集中的に雨が降るときにはとても今の堤防、ハード整備では無理だと、そういう情報、予想がなされたら、安全なところにまず避難をしてくれと。昔はいろんな話をするとき、ハード面の整備に努力しますと、こういう言い方を国も県も、どちらかといえば基礎自治体の行政側もそういうことを申し上げてきましたけれども、最近では異常な豪雨等については、ハード整備ではなくて、命を守るために安全なところ、早くそこを見つけておいて、家庭の避難計画でしっかり定めておいて、そこに逃げてくださいと、こういう言い方になってきております。そういう意味では家庭の避難計画、それから情報をしっかりキャッチする防災メールの登録など、これらについても掛川市民12万人に理解をいただくような努力をしていかなければいけないと、こう思っております。

それから、御質問の中でバイパス等から合流する滞留客等の避難についてということでもあります。

が、小・中学校など42カ所の広域避難所では、それぞれの地域性に合った運営マニュアルを作成しております。JR掛川駅周辺、東名、新東名インター周辺など主要幹線道路周辺では、観光客などの一時滞在を想定したマニュアルづくりも進めております。

避難所の備蓄について、掛川市では、各家庭で原則1週間分の食料等、水も含めての備蓄をお願いしております。持ち出せなかった場合や一時滞在者のために、一定量の食料等を掛川市は備蓄を進めております。具体的な数量については、担当部長からお答えを申し上げます。

次に、質問項目2の地域の民謡や民話の伝承についてであります。掛川市文化振興計画では、基本方針に「したしむ」、それから「つたえる」、「つくる」、「ささえる」の4つを掲げ、そのうち「つたえる」では、地域の特色ある文化を継承するとともに、これを周知して多くの世代に触れてもらえるよう取り組みを定めております。

1つの具体例としては、掛川市文化協会で実施をしております出前講座の中に掛川歴史教室があります。御希望をいただければ、地域に伝わる民話・伝承などに詳しい地元の方々が、学校や地区へ出向いてお話をしてくれます。さまざまな世代への地域文化の継承のため、大いに活用していただきたいというふうに思います。

先ほど民謡の話が出ました。「日坂馬子唄」、二、三年前から歌ってくれる方がいて、大変私も感激、感動しております。こういうものをしっかり引き継ぐ世代が生まれてこなければいけないというふうに思っておりますので、皆様に逆に期待をしております。

また、掛川市にある3つの図書館には、掛川市やその周辺に伝わる民謡や民話などを紹介する本や資料がたくさんありますので、そちらも参考にしてみてください。図書館とIT関係の政策課では、こうした郷土の大切な資料をコンピューターデータとして保存し活用していくデジタルアーカイブの実現に向けた取り組みも進めております。

皆さんもこういったものをどんどん活用し、学んだことをぜひ次の世代につなげていただきたいというふうに思います。

掛川市には本当にすぐれた歴史、文化が豊富にあるまちであります。これをしっかり後世に伝えていくというのが今を生きる私たちの義務、責務でもあると考えております。

○副議長（小崎風紗君） 答弁願います。

中村危機管理監。

〔危機管理監 中村克巳君 登壇〕

○危機管理監（中村克巳君） 私からは食料の備蓄量の補足説明をいたします。

予想避難所生活者の人数から27万食の目標に対しまして、現在、91%の24万5,000食のアルファ

米などの備蓄を進めているところです。

以上です。

○副議長（小崎風紗君） 再質問はありますか。

4番、栄川中学校。

○4番（谷川蓮君） 再質問させていただきます。

運営マニュアルなどの準備や備蓄などでの対策ができていても、僕たちのように、地震が起こったときにすぐ動ける人はいいですが、大きな地震が起こった場合、老人ホームや保育園などの人たちがパニックになるなど、避難しおくれしてしまうことが考えられます。そういった場合、市の職員などがすぐに助けることができるのでしょうか。

○副議長（小崎風紗君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） いろんな施設ごとにそれぞれの施設管理者が避難マニュアルを策定をして、いざ何かがあったときにどう避難させるかという計画はつくってあります。そういう意味でそれぞれの施設で防災訓練のときにそういう訓練を実施してもらおうという働きかけをしております。

それから、家庭にいる例えば高齢者、病気がちの人、要するに災害弱者と言われる人に対して、どう対応していくかというのが今一番の課題であります。そういう意味では昔のように、家族がたくさんいて、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、息子、その下の孫たちがいて、それぞれ災害に強くない人を助けるということができたわけですけれども、今核家族がどんどん進んで来て、そして、またひとり暮らしの高齢者自体もどんどんふえていくとなると、地域の皆さんの中で、とりわけ自主防災組織等々で、そういう災害の弱者、要支援者あるいは介助者、こういう人たちにどう対応するかという地域での計画、家庭の避難計画と同時に、地域での避難計画、これも策定するようにお願いをしております。全部 100%できている状況にはありませんが、健常者というよりも、大体避難するときに自助、自分の力では避難できない人が掛川市には 3,000人ぐらいいらっしゃるということですので、この 3,000人をどうやってみんなの力で命を守る、避難をしてもらおうかということが最大の課題だと。そういう取り組みも今進めておりますが、さらに加速して、しっかりした計画をつくっていかなければいけないというふうに思っています。その助けをいただく助け者としては、もう既に中学生の皆さんは大人と同じぐらい力があると、こういうことでありますので、積極的な協力、支援にも加わっていただきたいと、こう思います。

○副議長（小崎風紗君） 再質問ありますか。

4番、栄川中学校。

○4番（谷川蓮君） 再質問ありません。僕たちも地域の助けになるような行動をできるように心がけていきます。

○4番（杉山智香君） 再質問ありません。私にもできることからやって、地域の民話や民謡を残していきたいと思いました。

○副議長（小崎風紗君） 以上で、4番、栄川中学校の質問は終わりました。

5番 大浜中学校の一般質問

○副議長（小崎風紗君） 続いて、5番、大浜中学校の発言を許します。古家さん、雑賀君、御登壇ください。

〔5番 古家朱那君、雑賀厚頼君 登壇〕

○5番（古家朱那君、雑賀厚頼君） 5番、大浜中学校、古家朱那、雑賀厚頼。

通告に従って、一般質問を始めます。

○5番（古家朱那君） 1つ目の質問項目は高齢者との触れ合いについてです。

日本は少子高齢化が急速に進んでいて、私たちの周りにもお年寄りが非常に多いです。大浜中にも何度かボランティアに来てもらっていますが、その方たちと余り交流ができていません。高齢者と地域との交流をふやす施策が必要であると考えますが、市長の考えを伺います。

○5番（雑賀厚頼君） 2つ目の質問項目は高齢者の運転についてです。

高齢者の運転については、免許の返納を勧めていると思われませんが、市街地から離れたところに住んでいる高齢者の方は、生活が大変不便となり、少なくとも私の住んでいる地域では現実的ではありません。高齢者の方の安全な移動手段の確保についてどのようにお考えですか、市長に伺います。

○5番（古家朱那君） 3つ目の質問項目は若者と地域との交流についてです。

私たちはふだんから地域へのかかわりをふやそうと考えてはいますが、まだまだ足りない思っていて、若者と地域との交流が促進されれば、地域の活性化につながると考えています。そのため、多目的な施設の設置が必要と考えますが、市長の見解はいかがですか。

以上で終わります。

○副議長（小崎風紗君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 古家さん、それから雑賀さんの御質問にお答えをいたします。

初めに、高齢者と地域との交流をふやす施策についてであります。中学生の皆さんが学校に通

うように、高齢者が集う場所として、シニアクラブやふれあいサロン、生きがいデイサービス等の各種行事があります。学校行事やボランティア体験などで高齢者との交流事業を計画をした際には、いずれの行事もぜひ交流したいと聞いています。学校の合唱祭や体育祭で交流ができれば大変すばらしいことだというふうに思います。高齢の方はやっぱり若い方といろいろ交流を持つということが大変な生きがいにも通じて、先ほどこちょっと触れましたけれども、最近は核家族化あるいはひとり暮らしの世帯、高齢者の世帯がどんどんふえていくということで、いろいろな方と話をする機会がだんだん制限されてきているという状況にありますので、ぜひ皆さんの学校で何か行事をやるときに、高齢者の方を呼んでいただいて、ある意味では交流を深めていただければ大変ありがたいというふうに思います。

また、各地域にはまちづくり協議会がありますので、地域の高齢者との交流について提案をしていただくのも一つの方法であるというふうに考えております。

次に、高齢者の運転についてであります。高齢者の方の安全な移動手段の確保は大変重要なことであると考えています。このため掛川市では、平成29年4月から高齢者ドライバーによる交通事故を減らすため、高齢者交通安全対策支援事業として、運転免許証を自主返納した75歳以上の高齢者に運転経歴証明書の交付手数料全額補助や、公共交通利用助成券、1万円分ではありますが、の交付を開始しました。掛川市内の75歳以上の高齢者、約1万5,000人のうち、平成30年4月末の時点で対象者は6,700人です。昨年度の免許証の返上の実績は約400人が免許証を返納しております。

高齢者の免許自主返納の推進も図りながら、一方で、高齢者などの地域住民を対象に、地域の支え合いで実施する生活支援車両、中地区でつい最近スタートしましたが、生活支援車両運行事業や、予約により自宅と指定施設を結ぶ乗り合いタクシー、いわゆるデマンド型タクシーなどの事業を推進し、さまざまな手段の組み合わせにより公共交通の充実を図っております。

今後、これらの連携をより高め、地域の実情や特性に合った高齢者の安全な移動手段の確保へ、地域、交通事業者、行政が一体となって取り組んでいきたいというふうに思っております。

運転免許証は18歳からで、それは安全な運転ができますよという人に免許証は与えられるわけがあります。したがって、もう運転が心配ですよ。もう誰かにけがをさせてしまいますよというような人は、実は運転免許証を持っている資格がないわけですが、今はそういう返納の義務化がありませんので、できるだけそういう方には返納していただけるように、少しの支援ではありますが、してきているわけがあります。

一方、本当にこれから高齢者が運転ができないというようなときに、移動手段もしっかり確保す

るということは行政の大きな責務といたしますが、役割でもあると。ただ、行政だけでなかなかできない部分があるので、地域の皆さんにそれをやっていただく。中地区の生活支援車両なんかはまさにそういう意味で地域の方に運転をしていただいて、高齢者の方を病院とか買い物に連れて行っていただくと、こういう取り組みをしているところです。そういう取り組みもこれからどんどん進めていきたいというふうに思っております。

それから、質問項目 3の若者と地域との交流についてであります。掛川市には、掛川市生涯学習センター、それから大東北公民館、大須賀中央公民館、大東支所と大須賀支所にある市民交流センターや、各地域の生涯学習センターなど、多目的に活用いただける施設がたくさんあります。

掛川市では、これらの施設を活用したいろんな教室や研修会などのソフト事業で地域交流を促したいと考えています。例えば各地区のまちづくり協議会でも文化祭や体育祭など、さまざまな世代が参加し交流する事業を実施しておりますので、このような事業に参加することが交流を促進する方法の一つであると思っております。

また、皆さんが北公民館や千浜の農村環境改善センターに出向き、まちづくり協議会の皆さんと意見交換するなど、一緒にできることを相談していただくことも有効だというふうに思います。

学校の勉強だけでなく、地域の皆さんと皆さんがいろんな交流を図り、そこからいろんな情報を得るといことが教育の面にも大変いい効果が出ていると。毎年全国一斉の学力テストがあつて、掛川市の成績を教育委員会のほうからいただくわけでありましてけれども、ここ数年掛川市は大変いい成績です。全国平均をほとんど皆上回っているような状況です。何でこんな成績がいいのということも教育委員会のほうに聞きますと、掛川の小・中学生は地域活動、地域行事に全国の自治体よりも数段、30%も40%も参加率が高いと、こういうことが学校の学力にもつながってきているんだというお話を聞いて、本当にうれしく思っております。そういう意味ではこの若者と地域との交流についても、いろんな施設をうまく活用し、皆さん自身が積極的に地域の行事に参加するということをよくお願いをしたいと。それがいろんな面で人間形成にとって大変重要な役割を果たしていくものと思っております。

○副議長（小崎風紗君） 再質問ありますか。

5番、大浜中学校。

○5番（古家朱那君） 再質問させていただきます。

先ほど 2つ目の質問項目で、高齢者の方の安全な移動手段の確保などについて対策をとってくださっていることがわかりましたが、学生、主に高校生の交通手段についても改善が必要だと考えています。それは私たちの地域には高校に直行できるバスが少なく、遠くまで通学する人は朝早く掛

川駅までバスで行き、そこから乗り継いで行かなければならず、帰りも乗り継ぎのため遅くなってしまい、危険だからです。これが改善されれば事故を防ぐこともでき、もっと中学生の受験の幅が広がると考えますが、市長の考えはいかがですか。

○副議長（小崎風紗君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） 先ほども申し上げましたが、いろんな交通手段を連携して、今の交通網だけで十分だとは考えておりませんので、さらにいろんな工夫もこれから関係の皆さんと議論をしながら進めていかなければいけないというふうに思っております。

公共交通の関係で申し上げますと、いろんな路線バスがあるわけですがけれども、なかなかそれを利用していただけないということが一方ではあります。皆さんの中でいろんなところに行くときに、公共バスを利用している人がどのくらいいるかと。多分ほとんど利用していないというふうに思います。ですから、利用しやすくするというと同時に、皆さんにも利用してもらうということも一方大事だというふうに思っております。

それから、学校の関係の交通手段の確保ですと、磐田からの学校なんかは迎えに来てくれるスクールバスがあります。そういうことについても将来は考えていく必要があろうかと思えます。今のこの教育委員会ですけれども、教育委員会のほうで小・中一貫教育を含めたある意味での学校の統合等についても検討を進めております。大きな範囲で、エリアで1つの学校ということになれば、当然児童・生徒の足の確保も必要だ。そうすると当然スクールバスのようなものの重要性というのがより高まってきて、とりわけよく例に出すんですけれども、アメリカなんかではもうほとんどやっぱりスクールバスで通っているという状況がありますので、それらも将来のことも含めて検討していく必要があろうかというふうに思います。御指摘の点は大変難しい課題ではありますが、そういう努力もしていきたいと思っております。

○副議長（小崎風紗君） 再質問ありますか。

5番、大浜中学校。

○5番（古家朱那君） 再質問はありません。状況が改善されるよう、私たちも頑張っていきます。

○5番（雑賀厚頼君） 再質問はありません。ぜひ改善をして、掛川市をよりよくしてってください。

○副議長（小崎風紗君） 以上で、5番、大浜中学校の質問は終わりました。

6番 桜が丘中学校の一般質問

○副議長（小崎風紗君） 続いて、6番、桜が丘中学校の発言を許します。後藤君、土屋さん、御

登壇ください。

〔6番 後藤優貴君、土屋百合子君 登壇〕

○6番（後藤優貴君、土屋百合子君） 6番、桜が丘中学校、後藤優貴、土屋百合子。

通告に従って、一般質問を始めます。

○6番（後藤優貴君） 質問項目は掛川市の発展に向けてです。

現在、日本全体で少子高齢化が問題となっています。もちろん、それは掛川市も例外ではありません。私はその中でも若者の割合が減ってしまっていることが問題だと思っています。若者が減ってきてしまうと、仕事や伝統を引き継ぐ人も減ってしまい、市の発展は難しくなってしまいます。ただでさえ最近では上京し、東京などの大都市へ向かう人も多く、市の若者の割合も減ってきています。さらに静岡県全体では人口も減ってきています。これはとても深刻な問題です。市の発展のために人口や若者をふやすことが重要であると考えます。

そこで、若者や人口をふやすため、大学を建てたり、大型ショッピングモールを建てたり、新幹線をさらに活用できるように「こだま」以外の新幹線がとまったりするなど、人を呼べる工夫を、市長の考えを伺います。

○6番（土屋百合子君） 質問項目は勉強に集中できる環境づくりについてです。

私は、中学生として学校の環境について考えました。夏には教室内の気温が上昇します。特にことしは熱中症が全国的に問題になるほど気温の高い日が続きました。私の学校では暑さ対策として大型の扇風機を利用していますが、風の音がうるさかったり、扇風機に近い席の人は風でノートがめくれてしまい授業に集中できなかつたりしています。また、学校生活では1年を通して窓をあけています。しかし、窓をあけると網戸がないため蜂などの虫が教室に入ってくることもあります。そのたびに授業が中断されたり、生徒が授業に集中できなかつたりと、いいことは一つもありません。

また、最近では教科書も厚くなり、通学かばんはどんどん重くなっています。生徒への身体的な負担を減らすことで勉強へ集中する力も向上するのではないのでしょうか。以上の考えから2つ質問をさせていただきます。

市内の小・中学校の教室にエアコンを設置するか、窓に網戸をつけていただきたいです。

2つ目は教科書によるかばんの重さをやわらげるために、タブレット学習など、何か対策はできないのでしょうか。

以上で終わります。

○副議長（小崎風紗君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 後藤さんと、それから土屋さんの御質問にお答えをします。

2番目の質問項目については教育長からお答えをいたします。

質問項目 1の掛川市へ人を呼ぶ工夫についてであります。例に出していただいた大学や大型ショッピングモールの誘致、新幹線ひかり号の掛川駅停車は、若者や人口をふやすために大変よい方法だと考えています。これらは掛川市だけではなかなか実現することができませんので、いろんなところとある意味では交渉もし、話し合いもし、誘致活動もしっかり進めながら、これらの問題の達成に向けて努力をしていきたいと、こう思っております。

また、人を呼び込むために掛川のブランドメッセージである「あなたの夢、描いたつづきは掛川で。」の実現のための施策を市民の皆さんとともに進め、掛川市を全国に発信、売り込んでいきたいというふうにも思います。

特に若者や子育て世代を主なターゲットとして積極的な情報発信を行い、全国の方に掛川市に興味を持ってもらうことに今最も力を入れております。

人口の問題ですけれども、一般的にもう人口は確実に右下がりの状況だというふうに言われておりますけれども、掛川市のこの平成28年ぐらいから全体の人口そのものは減ってきておりません。ことしに入って 4月、5月、6月、7月までの 4カ月の住民登録における人口移動状況を申し上げますと、全部で人口が 124人ふえております。そのうち日本人が86人、外国の方が38人です。ただ、自然動態、それから社会動態、自然動態というのは生まれる方と亡くなられる方から、社会動態というのは掛川市に入ってくる人と出ていく人と、こういう人口の分析の項目があるわけですけれども、自然動態を見ますと、この 3カ月間で 314人の方が生まれて、372人の方がお亡くなりになっていると。ですから、58人その差は人口が減っていると。

それに反して社会動態ですけれども、1,618人が転入し、転出が 1,436人ということでありまして、182人ふえていることになります。この社会動態については、いろんな企業誘致も含めて一生懸命企業の方も行政も、あるいは市民挙げて努力をしている結果、働く場所があるということで、ほかから人がこの掛川に移り住んできていると、こういう結果で、ただ、合計特殊出生率、これは 1人の女性が生涯で何人の子供さんを産み育ててくれるかと、こういう数字であります。それが1.64人ということですね。ですから、やっぱり子供さんを産み育ててくれる環境をさらにしっかりしていかなければ、先ほど待機児童の問題もありましたけれども、待機児童がないような、そういう政策もしっかり進めなければいけないと。そういう環境整備、それから、やっぱり住んでいる日常生活

が非常に掛川市はいいよと。そういう意味ではきれいな緑のあるまちづくりがということを申し上げましたけれども、そういういろんな環境がいいようなまちを目指していきたいというふうに思っております。そのほか先ほど申し上げたようないろんな工夫をして、掛川に人が来てくれるような努力をしていきたいと思っております。

○副議長（小崎風紗君） 答弁願います。

教育長、佐藤嘉晃君。

〔教育長 佐藤嘉晃君 登壇〕

○教育長（佐藤嘉晃君） 私から質問項目 2についてお答えをします。

まず、(1)の教室におけるエアコンや網戸の設置についてですが、これまで夏場の暑さ対策としては、教室に扇風機を設置したり、昇降口の近くにミストをつけたりして、皆さんが快適に過ごせるよう工夫をしてきました。また、特に空調が必要な部屋として、図書室やパソコン室、保健室などにはエアコンを設置をしてきています。教室にエアコンを設置するということは、市内の小中学校31校が平等でなくてはなりません。一斉に設置するための工事費は10億円をはるかに超える金額となることから、今年度設置推進本部会議及び検討委員会を設立しましたので、エアコン設置の必要性や技術的・費用的な面について検討し、小・中学校の全普通教室に来年の6月を目標に設置をしていきたいと考えています。いろいろな工事の関係が入ってきますので、6月が厳しくなるかもしれません。

また、学校から網戸の設置要望が提出されましたら、学校と相談しながら、また順次整備を進めていきます。

次に、(2)のタブレット学習などの対策についてですが、タブレット端末を使つての学習については、未来の学校づくりを考える上でとてもいい考えだと思いました。将来、そうなる可能性もあると思います。でも、今は自分専用のタブレット端末で学習できる環境は便利かもしれませんが、教科書やノートなど、現在の皆さんの学習環境を考えると、自分専用のタブレット端末があっても、全ての学習ができるという、そういう状況にはなりません。掛川市では、普通教室でもタブレット端末などのICT機器を活用した授業づくりに努め、皆さんが効果的に学習できるように対策を進めてまいります。

○副議長（小崎風紗君） 再質問ありますか。

6番、桜が丘中学校。

○6番（後藤優貴君） 再質問させていただきます。

掛川市の発展に向けてのほうで、外国人移住者がふえていることがわかったので、道路標識やパ

ンフレットや、あと接客など外国語に対応したほうがよいと思うのですが、市長はどうお考えですか。

○副議長（小崎風紗君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） おっしゃるとおりだと思います。今外国人が 4,000人ぐらいいらっしゃいます。一番ピークのと、リーマンショックの前は 5,000人を超しておりました。今の生産年齢人口を考えますと、労働力としてのある意味での一定数の外国人の労働力、これは掛川市においても必要だというふうに感じておりますので、5,000人を超すような状況も踏まえて、いろんな意味で道路標識を含めて、何か所かはもう英語あるいはポルトガル語で出しておりますけれども、さらにそれをしっかり表示しなければいけないというふうに思っています。掛川市は多文化共生社会の実現に向けて、いろんな取り組みをしておりますので、外国人の方もいろんな意味で住民登録をされて、税金も払っていただいているわけでありますので、そういう人の利便性の向上の観点からも努力していかなければいけないと。御指摘のとおりでありますので、一生懸命頑張ります。

○副議長（小崎風紗君） 再質問ありますか。

6番、桜が丘中学校。

○6番（後藤優貴君） 再質問はありません。ぜひ実行してください。

○6番（土屋百合子君） 再質問はありません。来年から私たちの後輩が集中した環境で勉強できることをうれしく思います。よろしくお願いします。

○副議長（小崎風紗君） 以上で、6番、桜が丘中学校の質問は終わりました。

この際、しばらく休憩とします。

午後 3 時 2 4 分 休憩

午後 3 時 3 5 分 開議

○議長（後藤優貴君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を継続します。

7番 城東中学校の一般質問

○議長（後藤優貴君） 7番、城東中学校の発言を許します。前嶋君、前堀さん、御登壇ください。

〔7番 前嶋颯太君、前堀彩花君 登壇〕

○7番（前嶋颯太君、前堀彩花君） 7番、城東中学校、前嶋颯太、前堀彩花。

通告に従って、一般質問を始めます。

○7番（前嶋颯太君） 1つ目の質問項目は掛川市の交通についてです。

掛川市内には、自主運行バス、いわゆる 100円バスが運行していますが、なぜ掛川駅周辺だけで、旧大東町の方は余りたくさんバスが走らないのですか。中地区には生活支援車の運行サービスが始まりましたが、困っている高齢者や利用したい市民の方はたくさんいると思います。もっと便利なまちづくりを求めますが、掛川市としてはどのような対策をお考えですか、お聞かせください。

2つ目の質問項目は南海トラフ地震への備えについてです。

近年、この数十年のうちに南海トラフ地震が起こる可能性が高いと言われていています。もし地震が起こったら、掛川市の被害も大きいと聞いたことがあります。今、掛川市で地震に対してどのような対策をとっていますか、お聞かせください。

○7番（前堀彩花君） 3つ目の質問項目は中学校部活動の活性化につながる施策についてです。

私が部活動に取り組む中で、もっと部活動での体力・技術面での向上を目指したい。部活動を通して数々の試合を乗り越え、自分を伸ばしていきたいと思う場面が幾度もあります。ですが、この城東中学校では先生も少なく、部活動の種目もほかの学校と比較すると少ないです。掛川市の中学校で積極的に外部コーチを導入したり、部活動の顧問の先生を増員したりすることができれば、もっと部活動の内容も充実すると思います。部活動にかかわる人員の補充について、掛川市としてのお考えをお聞かせいただきたいです。

以上で終わります。

○議長（後藤優貴君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 前嶋さんと前堀さんの質問にお答えをいたします。質問項目の3については、教育長からお答えを申し上げます。

まず、質問項目1の掛川市の交通についてであります。現在、掛川市の地域公共交通は、JR東海道本線や天竜浜名湖鉄道の鉄道ネットワークに加え、路線バスが11路線、予約により自宅と指定施設を結ぶデマンド乗り合いタクシーが6地区、地域の支え合いで実施する支援車両が4地区で運行をされています。

掛川市は市の面積が広く、住宅の多いところや山に囲まれているところなど、地域により地理的な条件が大きく異なります。また、バス路線が長い割に沿道の人口が少なく、効率が悪く収益が上がらないため、バス会社は赤字を抱え、掛川市は補助金を出してこれを維持しています。

このバス路線を維持しながら、さらに路線をふやしていくためには、多くの方に乗っていただくことで収益をふやし、運行経費がなるべく少なくなるような効率性が重要となります。現在、掛川

市の計画ではバス路線の増加は考えておりませんが、鉄道や路線バス、自主運行バス、デマンド型乗り合いタクシーの連携をよってより一層高め、地域、交通事業者、行政が一体となって取り組むことで、掛川市の公共交通の維持・活性化を図っていきます。

前嶋君が言った 100円バス、何で私たちのほうにないんだということだというふうに思います。今、掛川市の自主運行バスについても、全体にかかる経費の15%の収益を上げていただきたい。もし15%より収益が上がらないというところについては、ほかの交通手段を考えていただきたいということをお願いをしているわけでありまして。ですから、1つの路線に経費の85%は市民の皆さんからいただいた税金をそこに投入しているということでありまして。15%ぐらいのところもあるわけでありまして、そういう15%を切ったところについてはデマンド型のタクシーとか、生活支援車両とか、いろいろな手法で検討していただきたい。結果として考えると、やっぱり路線バスを、あるいは自主運行バスを走らせても、乗ってくれる人が少ないと、こういうことでありまして。

ただ、掛川市民でありますので、病院に必要があつて行くときに、これだけの料金格差があつていいのかなということとは全くないわけではありません。将来にわたつてある意味では料金の格差が是正されるようにしなければならないというふうに思っています。今、千浜のほうから掛川市立病院に行くときに料金が大変高くかかります。したがって、病院へ行ったときには、片道の帰りは病院で診てもらったというあかしがあれば、帰りは無料にさせてもらっております。それは料金の格差の是正をやっぱり図っていかなければいけないということでありまして、一遍には無理ですけども、まずたくさん公共交通を利用していただくということをぜひ一方ではお願いをしたいというふうに思います。

それから、質問の2番目の南海トラフ地震への備えについてであります。静岡県第4次地震被害想定における南海トラフ巨大地震では、掛川市内の半分が震度7、残りの半分は震度6強の強い揺れに襲われ、建物全体の約40%に当たる2万1,000棟が全壊、死者は800人に上るとされています。

掛川市では、死亡者をゼロにすることを重要目標に掲げ、災害に対しての防災・減災と地域成長を両立した地域づくりを進めていくために掛川市の国土強靱化地域計画を策定をいたしました。津波から命を守る防潮堤、潮騒の杜づくりや住宅の耐震化、ブロック塀の改修、家具の固定等、家庭内対策などについて、市民・地域・企業・市民活動団体との協働により積極的に取り組んでいます。

特に自助の中心となる各家庭では防災ガイドブックを活用し、災害種別ごとに避難する場所や避難のタイミングについて話し合つて作成し、家庭の避難計画の作成率が100%を目指した取り組みを積極的に推進していきたいと思っております。

これには皆様方が家に戻って、お父さん、お母さんに家庭の避難計画ができているか、ぜひ聞いてみてください。もしできていなかったら、一緒になって、じゃつくろうよと、ぜひそういう輪をどんどん広げてもらいたい。なかなか行政のほうからいろんなお願いをしても、聞いてはいただけるんですけども、実行に移していただけないということでもありますので、ぜひ皆さんの力で家庭の避難計画が100%つくっていただけるような御協力もいただきたい。また、同報無線、防災ラジオ、それから掛川市ホームページ、メールマガジンなど、掛川市からの情報を入手するいろいろな方法もありますので、これらの周知も積極的に進めていきたいと思っています。

家庭の避難計画と同時に、今メールマガジン、これで登録していただければ、いろんな情報が直にスマートフォン、携帯電話に入るようになっておりますので、これについても家に帰って聞いてみてください。お父さん、お母さんに携帯に登録してますかと。ぜひ御協力をいただきたいというふうに思います。

以上であります。

○議長（後藤優貴君） 答弁願います。

教育長、佐藤嘉晃君。

〔教育長 佐藤嘉晃君 登壇〕

○教育長（佐藤嘉晃君） 私からは質問項目3の部活動の活性化につながる施策についてお答えします。

城東中学校に限らず、市内の中学校では、教員数の減少により専門的な知識や技能を持つ顧問の先生の確保が厳しい状況です。そこで、掛川市では部活動を担当する教員の支援を行うとともに、部活動の質的な向上を図るため、今年度6月から部活動指導員を各中学校に配置する事業をスタートしました。城東中学校にも部活動指導員の方がソフトテニス部に配置されました。しかし、学校が希望する全ての部活動指導員が見つかっていないのが現状です。

今後は、地域や各種スポーツ協会、企業等の協力を得ながら部活動指導員の充実を図り、部活動の活性化に努めてまいります。今現在、企業にチラシを配布して、部活動の指導で協力できる方いらっしゃいますかと投げかけているのですが、数社の企業の方から来てますが、まだ正式に配置をしていくところまでは至ってません。今後いろんな協力が得られると思います。特に部活動指導員については適任者がいたら配置ができるように、積極的に進めていきたいなというふうに思っています。

○議長（後藤優貴君） 再質問はありますか。

7番、城東中学校。

○7番（前嶋颯太君） 再質問はありません。大変勉強になりました。ぜひ対策をお願いします。

○7番（前堀彩花君） 再質問はありません。中学校部活動がさらに充実するようぜひ検討してください。

○議長（後藤優貴君） 以上で、7番城東中学校の質問を終わりました。

8番 大須賀中学校の一般質問

○議長（後藤優貴君） 続いて、8番、大須賀中学校の発言を許します。井上君、伊藤さん、御登壇ください。

〔8番 井上瑠久君、伊藤理乃君 登壇〕

○8番（井上瑠久君、伊藤理乃君） 8番、大須賀中学校、井上瑠久、伊藤理乃。

通告に従って、一般質問を始めます。

○8番（井上瑠久君） 質問項目は南海トラフ巨大地震の避難についてです。

今後30年間で南海トラフ巨大地震が起こる確率が従来の70%程度から80%へと高められました。記憶に新しく現在復興中の東日本大震災と熊本地震、そして大阪地震では、避難後の乳幼児や小学生、障がい者や高齢者の生活が課題となりました。

今後、南海トラフ巨大地震が起きた場合、掛川市では、乳幼児や小学生、障がい者や高齢者への配慮が必要となると思います。そこで、以下の3点の取り組みについて市長の考えを伺います。

1点目、避難所において乳幼児や小学生、障がい者や高齢者への対応をどのように考えているのか伺います。

○8番（伊藤理乃君） 2点目、建物の倒壊や津波から死を逃れた全ての被災者に可能性がある過労や栄養失調などによる震災関連死をどう防ぐのか伺います。

○8番（井上瑠久君） 3点目、避難生活が長引いたとき、ストレスや過労を最小限にするにはどのような対策をするのかを伺います。

○8番（伊藤理乃君） 以上で終わります。

○議長（後藤優貴君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 井上さんと伊藤さんの質問にお答えをいたします。

まず、避難所における乳幼児、小学生、障がい者、高齢者など要配慮者への対応についてですが、南海トラフ巨大地震では、5万9,000人を超える市民が避難所で生活すると想定をされております。毎年9月の総合防災訓練では、42カ所の広域避難所で自主防災会と掛川市が協働で作成

をした広域避難所運営マニュアルをもとに運営訓練を実施しています。このマニュアルには、乳幼児や障がい者、高齢者などの要配慮者専用のスペースを設置することを明記しております。

また、広域避難所での生活が困難な要配慮者のために、公共施設や民間福祉施設などを福祉避難所として市内44カ所を準備しております。

一番最近の防災対策で重要と考えるのは、もう全ての人にいろんなお願いをするということだけでなく、要配慮者、この人たちをどう支援して、命を守ってもらうか、あるいはいいところに避難してもらうか、こういう対策が不可欠で、大変重要だというふうに思っております。そういう意味では要支援者の名簿が、これは個人情報保護の観点から、なかなか公にできないという弊害があって、オープンにできませんけれども、これが自主防災組織の皆さん、地域の皆さんにはそういう名簿がすぐ手に入って、みんなでそういう要介護者、支援者を助けると、こういうことが必要だというふうに思っております。要配慮者の対応が一番重要だというふうに思っておりますので、さらにそういうことを積極的に進めていきたいというふうに思います。

それから、震災関連死をどう防ぐかについてであります。避難生活による過労、ストレス、感染症などのリスク要因を減らすということが大切であります。その対策として、掛川市では、住宅の耐震化、家具の固定を進め、まず自宅で在宅避難ということが一番重要だと。いろんな広域避難所に行かなくても、自分の家で避難できるようなそういう家のつくり、耐震化あるいは1週間の食料、水等の備蓄、こういうことが大事で、まず在宅避難ということを最優先したいと。

それから、2つ目としては、地域で見なれた人たちと過ごす地域の避難所への避難。地域の例えばある自治区の一番小単位の公会堂とか、そういうところに避難すると。地域の顔の見える人たちが一緒になって避難していく、そういう場所。

それから、3つ目が、自宅も地域の避難所でも生活できないというようなときに、小・中学校などの広域避難所へ避難するという3段階を想定をして、避難生活を考えて対策を進めております。

また、避難所や、最近車の中で避難するという方もおりますので、エコノミー症候群の対策として、定期的に体を動かしたり、小まめな水分補給を行うような指導を保健師を派遣して対応を考えております。今度の西日本の今の被災地にも掛川市の職員の保健師が行って、そういう対応を今とって来ています。いろんな意味で避難生活が長くなると、当然ストレスがたまり、体調不良になるという心配がありますので、そういうことにならないような指導の徹底も必要だというふうに思っております。そういう取り組みもさらにしっかり進めていこうと。

それから、3番目の今ちょっと触れたかもしれませんが、避難生活におけるストレスや過労の対策についてであります。ストレスは自宅での在宅避難や地域の避難所で軽減することができ

ると考えています。また、避難所はプライバシーを確保するため、間仕切りや段ボールベッドなどが有効であり、段ボール製品の事業所と協定を締結して確保することを進めています。

疲労については、東日本大震災の教訓から、広域避難所運営マニュアルで、特定の人に作業といひますか、仕事が集中しないように、自主防災会や全ての避難者がその広域避難所の運営に参加することや当番制にすることなどを明記をしております。そういった対策を講じたとしても、心や体に慢性疾患を持つ住民等への配慮は必要となります。東日本大震災や阪神淡路大地震の大規模災害後に、先ほどちょっと触れてしまいましたけれども、これまで掛川市から 5名の保健師が派遣されており、それらの経験を生かして避難所における巡回指導を行い、心と体のケアに努めていきます。また、必要に応じては、災害派遣精神医療チーム、D P A Tというようすけれども、派遣を要請し、専門的な支援にもつなげることを考えております。避難生活というのは、これは物すごく快適にという状況をつくり出すには大変困難なことがたくさんありますが、可能な限り避難生活で病気になつたり、ストレスがたまってしまうというようなことのないような仕組みをさらに追求していく必要があるというふうに思っております。

私からは以上であります。

○議長（後藤優貴君） 再質問はありますか。

8番、大須賀中学校。

○8番（井上瑠久君） 再質問させていただきます。

避難については理解できたんですが、僕たちの地域はとても海に近いし、田んぼや、ふだんは水が流れていせんが、川もあります。そういった中でもし津波が来た場合、水による被害に対して市で対策を少しでもとっているのか伺ひます。

○議長（後藤優貴君） 答弁願ひます。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） 東日本大震災、3.11の大津波を受けて、掛川市の海岸の長さが10.4キロだということです。大須賀地域もその半分弱ぐらいは多分あるでしょう。そういう意味で、すぐ南海トラフの津波の想定津波高、これが13メートルから 9メートルぐらいの高さが来ますよと、こういう発表がありました。そして、浸水域も示されております。

そういう意味で、1つは、少し長期的にはなりますけれども、その津波高に合わせた防潮堤、防災林の整備を今進めております。2キロぐらいできたんでしょうか。これを全部10キロまでやってしまうということが1つ。それから、浸水域でなかなか避難できないというような地域においては、津波避難タワーをそれぞれ整備して、そこに避難してもらおうと。浸水域から外に何分以内ですかね、

避難できないというような地域においては。それから、掛川の南部の海岸線地域にはいろんな大きな企業が工場を持っておりますので、工場にそういう屋上の避難の場所とか、そういうのも整備してもらいたい。それから、命山のようなものも整備して、これらに対する支援を行政として積極的に津波対策に取り組んできております。

防災林、防潮堤、これについてはすぐというわけにはいきませんが、できるだけ早く、あと 7年で完成するという努力をしております。

ただ、この防災林、防潮堤については津波だけを防ぐための、そういう防潮堤、防災林でなく、幅が50メートルとか、自転車道を真ん中に通すとかいうような工夫をしながら、みんながそこで通常時には癒やしの空間として、あるいは子供たちの体験学習の場として、そういう命を守る森づくりも兼ねて防潮堤をつくっていかうという取り組みも今進めております。行政ができることは着実に進めてきているということでもあります。

ただ、万万が一ということがありますので、いろんな情報をしっかりキャッチして、避難をするということについても全く大丈夫だという気持ちでいるということではできませんので、万が一のときには避難をする。それはいろんな情報をしっかりキャッチをしてもらうという先ほどメールマガジンの話もした。情報がしっかり入るように、それぞれの家庭に防災ラジオというものを貸与しますか、お渡しをしています。そういうものからいろんな情報をキャッチするという努力もしていただきたいというふうに、先ほども言いましたけれども、メールマガジンの登録を家庭に戻ったら、ぜひお父さん、お母さんに確認をしていただきたい。もし登録してなかったら、登録するようにしていただきたいというふうに思います。

○議長（後藤優貴君） 再質問はありますか。

8番、大須賀中学校。

○8番（井上瑠久君） 再質問はありません。大変勉強になりました。南海トラフ巨大地震が起こってしまった場合、人のために動き、地域に貢献できる人になりたいです。

○8番（伊藤理乃君） 再質問はありません。いつ発生するかわからない災害時に地域の 1人として、自分のためだけではなく、人のためにも行動していきたいです。

○議長（後藤優貴君） 市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） 今、防災林の工事を進めていますので、一度見ていただきたいということと、市民の皆さんにその防災林の植樹をお願いをしています。いろんな小学校ではどんぐりの種を育ててもらって、それを植樹するというのもお願いをして、教育委員会のほうでやっていただいております。掛川市がいろんな対策をとっているというのをぜひ皆さんの目で確認もしていただきたい

というふうに思います。

以上でございます。

○議長（後藤優貴君） 以上で、8番、大須賀中学校の質問は終わりました。

9番 原野谷中学校の一般質問

○議長（後藤優貴君） 続いて、9番、原野谷中学校の発言を許します。片桐さん、小林君、御登壇ください。

〔9番 片桐菜花君、小林祐太君 登壇〕

○9番（片桐菜花君、小林祐太君） 9番、原野谷中学校、片桐菜花、小林祐太。

通告に従って、一般質問を始めます。

○9番（片桐菜花君） 質問項目はいじめをなくすための取り組みについてです。

全国的に見ると、現在もなおいじめのニュースを耳にします。私たち原野谷中学校の生徒は、以前から先輩後輩の仲がよく、挨拶も大変活発に行われており、重大ないじめは起きていません。しかし、ちょっとした悪ふざけや遊び半分で友達に嫌な思いをさせてしまうことが時々あります。

原野谷中学校では、平成27年度3月に、当時の生徒会本部役員がいじめに対する行動宣言をつくってくれました。

宣言の内容は次の通りです。

○9番（小林祐太君） 1、原中生は「笑顔」でいることを忘れない。

2、原中生は「感謝」の気持ちを伝える。

3、原中生は「素直」な心を持つ。

4、原中生は「挨拶」の大切さを忘れない。

5、原中生は「平等」であることを約束する。

原中生は、以上の宣言を実行し、行動することで、清く美しい学校を築くことをここに誓う。

現在、これをさらによいものにするために改善しようと考えていますので、いじめをなくすための市の取り組みについて教育長に伺います。

○9番（片桐菜花君） 1点目、掛川市及び掛川市教育委員会として取り組んでいるいじめ防止策を教えてください。

○9番（小林祐太君） 2点目、ほかの学校の特色ある取り組みについてどのようなものがあるか伺います。

○9番（片桐菜花君） 3点目、本校の宣言を見て、私たちは現在の原中生に合ったものに内容を変更したいと考えていますが、どう思いますか。

以上で終わります。

○議長（後藤優貴君） 答弁願います。

教育長、佐藤嘉晃君。

〔教育長 佐藤嘉晃君 登壇〕

○教育長（佐藤嘉晃君） 片桐さん、小林さんの質問にお答えします。

まず、(1)のいじめ防止策についてですが、掛川市では、平成27年 4月に掛川市いじめ防止条例を施行し、掛川市いじめ防止基本方針を策定しました。この基本方針では、いじめを許さない学校づくり、いじめの未然防止、早期発見・スピード感ある対応、組織的対応と指導の継続化、関係機関との連携強化、いじめ解消後の児童・生徒の心のケアの 6つをキーワードに掲げています。

各学校は、この方針を参考にして学校の基本方針を定め、学校いじめ防止組織を中心に、いじめを見逃さない体制づくりやいじめへの対応をしています。掛川市教育委員会は、こうした学校の取り組みを指導・支援し、学校や関係機関と一体となっていじめ防止に全力で取り組んでいます。

次に、(2)のほかの学校の特色ある取り組みについてですが、各校では、いじめゼロ強化週間、これにおいて人間関係づくりプログラムを実施したり、全校集会を実施したりして、いじめが起こりにくい人間関係や環境づくりに努めています。

中学校では、例えば西中学校では生徒会を中心にいじめ追放宣言を実施したり、東中学校では平和な学校、平和な社会をつくることを目的とした平和集会を開催したりしています。また、城東中学校のように、ピンク花壇やピンクシャツによって、いじめゼロのメッセージを全校生徒に発信する取り組みを実施した学校もあります。

次に、(3)の原野谷中学校のいじめに対する行動宣言についてですが、いじめをしないというマイナスのことについて「しない宣言」をするのではなく、清く美しい学校を築くために「笑顔」「感謝」「素直」「挨拶」「平等」、これらを大切とした行為を実行するという「する宣言」をしているところが大変素晴らしいと思います。そのままでも十分に素晴らしい宣言ですので、改善の必要はないかと思いますが、あえて挙げるならば「寛容」や「受容」といった相手の存在を認め、尊重する、そういった要素が入ってもいいかもしれません。

今後も、すべての生徒が安心して、生き生きと学校生活を送ることができるように、毎年取り組みについて振り返り、学校のみinnで改善点について話し合い、原野谷中学校ならではのよりよき宣言をつくり上げて、実行して行ってほしいと、そのように思っています。

○議長（後藤優貴君） 再質問はありますか。

9番、原野谷中学校。

○9番（片桐菜花君） 再質問させていただきます。

現在の原野谷中学校は、先輩、後輩の仲がよい学校ですが、時々先輩に対して失礼な態度をとってしまう生徒や、逆に後輩に対して嫌な態度をとってしまう生徒がいます。今回の変更で対策をとりたいと考えていますが、どのようなことを意識して改善したらよいですか。

○議長（後藤優貴君） 答弁願います。

教育長、佐藤嘉晃君。

○教育長（佐藤嘉晃君） 先ほど受容ということをちょっと言いましたけれども、先輩、後輩が仲よくなるというのは、やっぱり相手を知って、どういう気持ちでいるかというのを受けとめるということが大事かなと思います。例えば挨拶とか態度が悪いということですけども、例えば後輩から先輩を見たときに、怖い先輩、厳しい先輩、優しい先輩、いろいろあるかと思うんです。逆に先輩から後輩を見たとき、生意気だとか、いろいろあるかと思うんですけども、それぞれお互いにどんな先輩、後輩かというのをまず理解することが大事かなと、そのように思います。そのためにも、先ほど言った受容ということや、相手に対してやっぱり感謝する気持ちとか、そういったものが大事かなと思います。今、原野谷中学校の実態がちょっとわかりませんが、今の質問であったようなことだとしたら、少し全校集会でも開いてみて、そういったことをテーマにちょっとぜひとも話し合ってみるといいのかなと、そのようにも思いました。

以上です。

○議長（後藤優貴君） 再質問はありますか。

9番、原野谷中学校。

○9番（片桐菜花君） 再質問はありません。大変勉強になりました。

○9番（小林祐太君） 再質問させていただきます。

先ほどのほかの中学校の取り組みはわかりましたが、小学校や高等学校などの教育機関でほかに行われている取り組みは何か伺います。

○議長（後藤優貴君） 答弁願います。

教育長、佐藤嘉晃君。

○教育長（佐藤嘉晃君） 小学校で何か取り組んでいるということは余りないかと思うんですが、高校については正直私は把握しておりません。何か聞いていればお答えできるかと思うんですが、少し高校側に伺って、もしわかれば、また皆さんにこういった取り組みがあるよということをお知らせしたいなというふうに思います。すみません、回答できなくて。調べてみたいと思います。

○議長（後藤優貴君） 再質問はありますか。

9番、原野谷中学校。

○9番（小林祐太君） もう一つ再質問させていただきます。

教育機関で子供同士のいじめはもちろん、いじめではありませんが、子供と大人の間で体罰や家庭での虐待など、さまざまな問題があると思います。先ほどの質問で答えていただいた掛川市いじめ防止基本方針などがありますが、いじめに対してという趣旨から外れますが、このような問題に対して回答資料のもの以外でほかにどのような防止策があるのかを伺います。

○議長（後藤優貴君） 答弁願います。

教育長、佐藤嘉晃君。

○教育長（佐藤嘉晃君） いじめ防止条例は、また学校の先生に聞いてみてくださいと細かいことがわかるかと思いますが、今虐待とかいろいろお話がありましたけれども、とにかく学校だけでは解決できないという場合もあります。家庭の問題については、やはり教育委員会だけでなく、ほかの課、市にありますけれども、家庭児童相談室だとか、福祉課のそういう窓口もありますし、教育委員会ですと、市の教育センターにそういった相談窓口や対応を考える心の相談員というんでしょうかね、そういったことを考える、受けとめてくれるところもあります。そういったところと学校とが連携をしてお答えするというのか、対応するということができるかなというふうに思っています。

いじめについては、そのほかにということだったんですが、とにかくあってはならないことだという認識で、これは学校の先生方も教育委員会も同じです。ですから、ちょっとしたことでも取り上げていくということで、学校でも先ほど態度が悪いとか言葉が悪いとかとありましたけれども、やはり相手が嫌な思いをする、嫌な気持ちにさせてしまうようなことがあれば、少しでも、小さなことでも上げてもらうということで対応していますので、アンテナを高くということは学校でも教育委員会でもそんなような対応を、聞き取りをしております。

以上です。

○議長（後藤優貴君） 再質問はありますか。

9番、原野谷中学校。

○9番（小林祐太君） 最後に、もう一つだけ再質問させていただきます。

先ほどもあったように、いじめはあってはならないとおっしゃいましたが、もし仮に深刻ないじめなどにより被害者が自殺をしてしまった、もしくは自殺未遂になってしまった、そういった場合、ニュースを見ると必ず学校や市などは改善するや、より厳しく対策をしていくなどとおっしゃいますが、はっきり言って僕はそれは鮮明ではないと思います。掛川市はどのような対応をするのか、

なるべく具体的にお願いします。

○議長（後藤優貴君） 答弁願います。

教育長、佐藤嘉晃君。

○教育長（佐藤嘉晃君） 大変すばらしい質問だなと思いました。大体どこの市町も同じような対応をするわけですが、ここで少し説明をしておきたいと思うのは、先ほど言ったいじめ防止条例の中に、そういった重大事態が発生した場合の対応については、きちんとした市のマニュアルみたいなのが実際あります。掛川市の場合は、もしそういった児童・生徒が亡くなってしまったような、そういった事案、そういったのがありましたら、緊急に重大事案として、これは教育委員会、学校でも判断する場合がありますけれども、それについてすぐ対応の会議を行います。その会議を行うためには、当然ここにもいらっしゃる市長とか副市長とか、みんなに報告をしながら、総合教育会議という会議が1つございます。そこでもどういった内容で、どういった対応をするのかということについても検討をします。それとあわせて、教育委員会でもいじめ防止対策推進委員会という、そういった方々が弁護士とか、医療関係とか、いろんな方が専門の知識を持った方々がいらっしゃいますので、そういった方々を緊急に招集をしまして、どういった内容なのかということをごきちんと把握した上で対応策を検討します。

先ほど最初に言いましたけれども、大体ほとんどの市町はそういう対応をするんですけども、報道なんかで出てくるときに、やっぱりなかなかすぐ答えられないというケースがほとんどかな。複雑なケースと言っていいんでしょうかね、いじめでも簡単ないじめじゃなくて、いろんな人がかかわっていたりとかすると、調べたり確認したりすることに時間がかかったりするので、こういう場合でもすみません、まだ調査中ですか、検討中ですかという回答になるかと思うので、そういったところはちょっとはっきりしないというイメージになるのかもしれませんが、今お話ししたような対応を掛川市は少なくともしているということで理解してほしいと思います。

○議長（後藤優貴君） 再質問はありますか。

9番、原野谷中学校。

○9番（小林祐太君） 再質問はありません。たくさんの質問に答えていただき、ありがとうございます。いじめがないことが掛川市の誇りの一つになることを切に願っております。

○議長（後藤優貴君） 以上で、9番、原野谷中学校の質問は終わりました。

以上で、本日の日程全部を終了しました。

閉会に当たり、中学生議会議員を代表して挨拶を申し上げます。

〔議長 後藤優貴君 登壇〕

○議長（後藤優貴君） 本日の中学生議会を通してたくさんの貴重な経験を得ることができました。教えていただいたことを無駄にせず、これからも掛川市民の一人として、誇りに思える活動を続けていきたいと思えます。

また、大変お忙しい中、私たちの質問に丁寧に御答弁いただいた松井市長を初め、皆様方に対し、中学生議員を代表いたしましてお礼を申し上げます。

本日は、長時間にわたりお疲れさまでした。（拍手）

○議長（後藤優貴君） これにて本日の会議を閉じ、かけがわ中学生議会を閉会とします。

○議会事務局長（栗田一吉君） 後藤優貴議員には自席のほうにお戻りいただきます。

〔後藤優貴君 自席に着座〕

○議会事務局長（栗田一吉君） 閉会に当たりまして、佐藤教育長のほうから講評をお願いいたします。

〔教育長 佐藤嘉晃君 登壇〕

○教育長（佐藤嘉晃君） 長時間にわたりまして、また、厳粛な雰囲気、本当に緊張感のある雰囲気の中で大変すばらしい中学生議会であったと思います。中学生の皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

きょうの中学生議会は、平成28年度にかけがわ子ども議会として始まってからちょうど3回目の中学生議会となります。2年前の最初の質問では、掛川市内の南北を結ぶ交通面の整備についてという大須賀中学校の永田さんの質問でした。きょうもバス路線についての質問がありましたけれども、そのときの掛川市内の状況を考え、未来を見据えて、さらに掛川をよりよくしていこうと考えているのが伝わってきました。

きょうは一人一人が市民の代表として、または学校の代表として疑問を投げかけ、新しい提案をしていただきました。掛川市の魅力、掛川市の誇りをもっと向上させて、すばらしいまちにしたい。若い人をふやしたい、ふやしてほしい。高齢者も住みやすいまちにしたい。地震、防災、観光、路線バスのこと、校舎環境のこと、部活のこと、そしてワールドカップやオリンピックについてのこと、いろいろ皆さんから提案をしてくれたことは、まさに今日的な課題をしっかりと捉えたものでした。特にワールドカップやP e p p e rについては、これからまさに皆さんが中心となる未来のことですので、今後もぜひさまざまな提案をしていただけるといいなとうれしく思います。

きょうの中学生議会の中でとてもうれしかった言葉は、私たちにもできることがあると思いますという発言が質問の中からあったわけですがけれども、本当に心強く思いました。それから、最後のほうに、原野谷中学校からたくさんの再質問を出していただきまして、本当にこれもうれしく思い

ました。私も少し緊張しました。

今、掛川市では協働のまちづくりというものを進めておりますので、きょうのような中学生を初めとした若者、この力をまちづくりに生かしていくことがとても大事だとみんなが考えています。これにも感動しました。皆さんはきょうの経験を学校に持ち帰って、友達に話をし、さらに議論して、新しい提案、新しい企画をつくって、どんどんいい市にしていくように、たくさんの提案をもっともって持ってきてくださるといいかなと思います。皆さんが行動を起こすときには、私たち大人が後押しをしますので、しっかり提案があれば来てほしいなと思います。

このようなすばらしい中学生議会ができましたのは、これまで御指導いただきました、計画をいただきました掛川市議会の皆様、それから学校の先生方、そして、きょうたくさんの保護者の方だと思いますが、御両親や御家族の皆様、そういったおかげだと厚く御礼申し上げます。

まとめとして、きょうの議会は私たち大人が中学生から学ぶ貴重な時間であったというふうに評価したいと思います。皆さんのさらなる成長と掛川市の未来に大きな期待を抱いて、心から感謝を申し上げまして、講評といたします。

きょうはまことにありがとうございました。お疲れさまでした。（拍手）

○議会事務局長（栗田一吉君） ありがとうございました。

最後に、掛川市議会の棒葉正樹副議長から御挨拶を申し上げます。

〔掛川市議会副議長 棒葉正樹君 登壇〕

○掛川市議会副議長（棒葉正樹君） 中学生の皆さん、本日は大変お疲れさまでございました。

皆様は、学習会から、そしてリハーサル、そしてきょうの本番まで一生懸命勉強していただきまして、掛川市の発展のため、すばらしい質問をいただきまして、ありがとうございます。どれもすばらしい質問ばかりでありましたので、きょうこの会場にいる現役の市議会議員の皆さんもとてもいい刺激を受けたんじゃないかなと思っておりますので、また中学生議員の皆様にも負けずに、これから取り組んでいきたいなというふうに思っております。

また、これから中学生の皆様はそれぞれの夢に向かって大事な時期が来るかと思っておりますけれども、このかけがわ中学生議会の経験を生かしまして、これから未来の掛川市のまちづくりの主演として今後御活躍をいただけることを心より祈念をいたしまして、平成30年かけがわ中学生議会閉会の挨拶とさせていただきます。

本日はまことに御疲れさまでした。（拍手）

○議会事務局長（栗田一吉君） ありがとうございました。

以上で、かけがわ中学生議会の日程全部を終了しました。

午後 4 時 3 5 分 閉会

